



1年 鈴木 貴瑛さん

※わたしのかおを大きくていねいにかきました。よつこもきれいにかきました。

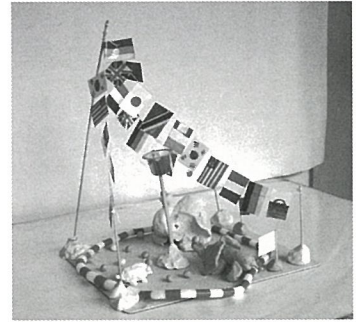


『どうぞ よろしく』

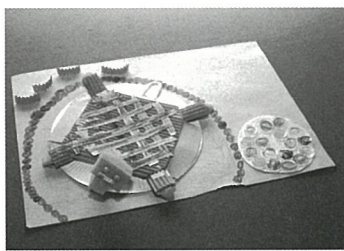


2年 鈴木 健太くん

※どうぶつたちがたのしそうにうんどう会をしているところです。



『ぞうの玉入れ』



『カメのおさんぽ』



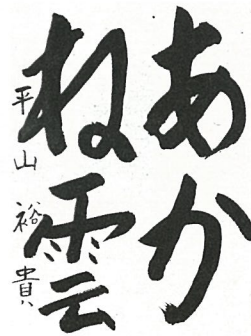
3年 青柳 花野さん

※カメのこうらをつまみかきして作りました。目にするピースをつけるのが大変でした。

あつまれ みんなの 力作



4年 平山 裕貴くん



『あかね雲』

※あかね雲は、『とくに』ねを集中してがんばりました。よくてきたと思います。



5年 森 智絵美さん

※「い」をつなげるように書きました。中心の線に、そるえるように書きましました。



『美しい国』

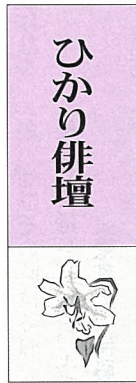


6年 片岡 英理さん

※フランスをとるのがおもしろかったけど、うまく書けて良かったです。



『夢の空港』



ひかり俳壇



寝返りが打って乳児の夏初め  
越川せつ子 (篠本)

立てば歩けの親心と言うが寝返りを初めて打った乳児への感動を素直に詠んでいる

ひたすらに田圃に急ぐ初夏の水  
大木 静水 (篠本)

水争いがあつた程で、田植時期は水の大切さを知り尽している農村人の実感である

平凡に農一筋や初夏となる  
鈴木とし子 (宝米)

敗戦時の混乱期を切り抜けて来て農業に勤しむ老夫婦、平凡ならぬ非凡である

宴終えて頬に受く風夏来る  
川島 通則 (二又)

バイクにて水みまわりや初燕  
越川 義則 (二又)

句友より閑居に初夏の句のもの  
川島 孝夫 (二又)

代掻くや水田の波を煌めかせ  
土屋 義昭 (虫生)

短評 椎名しげる

評者吟 点眼の面を上げたり初夏の天

